

以上

平成22年度ホスピスドクター養成研究事業

報告書

財団法人ライフ・プランニング・センター

ピースハウス病院

院長 西立野 研二

I 事業の目的・方法

本事業の目的は、ホスピス緩和ケアに従事することを志望している医師が、指導医の指導の下に主治医として実務に従事しながらホスピス緩和ケアを習得することができるようプログラムおよび実践の場を提供することであると理解している。

研修者には、病態生理学、精神神経薬理学、症状マネジメント、患者・家族のケア、コミュニケーション・スキル、スピリチュアル・ケアなど、緩和ケア全般について段階的に習得することを期待している。なお、当院の医師研修プログラムは日本ホスピス緩和ケア協会、日本緩和医療学会の提示する医師用緩和ケア教育カリキュラムに準拠したものである。

養成の対象となる医師については、申込書類および院長との面接に基づき決定する。同一期間には原則として1～2名の研修を受け容れる。

II 内容・実施経過

研修者は他職種の新採用者ととともに着任時オリエンテーションを受ける。財団や当院、地域の概要を知ると共に、医師業務のみならず他職種業務やボランティア活動を体験的に知るためのものであり、合計4日かける。

初期3ヶ月間は前任医師の指導下に医療業務に従事する。当直業務にも就く。この期間に当院多職種教育プログラムのレベルⅠおよびⅡの大半を達成することを目指す。次の9ヶ月間には、担当医として主に入院患者、時に外来患者を受け持ちながら教育プログラムのレベルⅡの完全達成し、レベルⅢの課題について知識・技術の会得と共に思索を深めることを目標とする。入院相談、外来診療、往診も分担し、入退院検討委員会、診療管理会議にも参加する。

当院では研修者もスタッフの一員として活動することを求めている。病院行事、集会、各種委員会活動のみならず、財団全体の行事や、全国ならびに地域

の緩和ケア関係の活動にも積極的に関与することを望んでいる。

Ⅲ 成果

平成 22 年度研修生の草山ほづえ医師は、臨床医として既に経験は豊富であり、この一年間の当院における研修は十分達成できたと考えられる。他職種、特に看護師の評価も高い。

今後、当院での勤務を継続することが決まっている。自己研修の要素が多い教育プログラムのレベルⅢの研修を継続すると共に、緩和ケアに関する教育・研究にも積極的に関与することを期待する。